

2019年4月28日(日) 第一ヨハネ 4:13-21 説教: 黄昌性 牧師

聖書とは何であるか。聖書は「愛」であり「聖」であり世俗とは異なる。「愛」という漢字を「めぐみ」と読み替え子供に名づける人もあり、「愛」は「恵み」を伴う。

第一ヨハネ 4:13-16 において「神が私たちのうちにとどまる」ことを表している御言葉が3度に及び出てくることは、神が私たちのうちにとどまってくださることが重要であるからである。神が私たちのうちにとどまるのは聖霊の導きによる。I コリント 12:3 『聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言えないのです。』

「キリスト」という文字から「聖」を感じるができるのは、その人のうちに「愛」がとどまっているからである。使徒パウロはキリストがこの世に人の形をとっておられたときキリストに出会ったことはなかった。その点において、パウロの経験と現代を生きる私たちの経験は同じであるといえる。

自分が求めていることのためにキリストを信じる、いわば「キリストプラスアルファ」の信心において、実はキリストは信じられているのではなく、「理解されている」のみである。

イエスキリストは神に向かって従順し十字架の道を選ばれたのは、御自分が求めている何かがあったからではないのである。

愛されることを求めて幸せになる人は少ないが、愛することを求めて幸せになる人は多い。

前者が Give and Take とすれば後者は Give and Give でありまさにキリストのされたことであった。キリストがなぜ十字架で死に復活されたか。それを理解しようとするのではなく

純粹に文字通りに感じることである。礼拝においてキリストのその愛を感じることである。

神の愛を一週間の生活の中で思い起こし歩み、キリストの十字架の死を感じることである。

なぜなら、ゴルゴタの丘で十字架にかけられ死なれたキリストと私たちの信仰を切り離す

ことはできないからである。職場、学校や公の場にあってもわたしたちはキリストは神である

ことを表していく。神の愛を信じるとはキリストを愛することであり、その愛に精神がと

どまり身を置くこと。神に自らの精神を置くことである。

ところで、イエスキリストは神の子になったのであろうか。そうではなく、イエスキリスト

はもともと神の子である。キリストはあなたの代わりに十字架にかかられた。それによって

あなたの罪が赦された。あなたに向けられた神の愛があなたからあなたの周辺の人々へ流

れていく。この世界における裁きにおいて、その罪人とは無関係の裁判官が判決を下すが、

キリストの裁きにおいてはキリストが裁判官であり、罪人のために十字架にかかられ傷だ

らけになったキリストご自身が裁きを行われるのである。この裁きにより、罪人は永遠の命

を得、神の国に入れられた人々への裁きとしての報いを得られる。すなわち、神の愛を知り

キリストの御名を信じて互いに愛し合うことにより神の愛が全うしていることを確信でき

るのである。キリストの愛は完璧な愛である。礼拝は相対的ではなく、絶体的なもの。礼拝

において一つの心をもって一つになること。十字架で死なれたキリストは平和を保つこと

を教えられた。キリストを小さな枠で見るのではなく私たちの子孫に至るまで広くとらえて

いくことである。20 節「神を愛しているといいながら兄弟を憎む」ことはできない。「兄

弟」は「世界」と言い換え得る。マタイ福音書 5:46-48「自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるか。異邦人さえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」律法はキリストの十字架の死と復活により完成された。律法の完成とは愛である。

5月1日から日本において新しい時代が始まる。神の愛がとどまる私たちの故郷である日本を愛することは、私たちの周囲の人々を愛することであり、世界を愛することである。常に神を愛し神にとどまる場所に、神の愛が全うされるのである。